現職日本語教師研修のための総合教材開発
―「日本語を楽しむ」の制作意図と発展―

酒井たか子　　高橋純子

要　旨

日本語教育に携わる韓国人日本語教師のための京畿道外国語研修院での研修で使われる中上級用の教材の１つとして特集「日本語を楽しむ」を作成した。本教材は(1)日本語のリズム七五調　(2)言葉あそび　(3)落語　の３つのテーマからなり、日本語の特徴を理解し、実際の創作活動を通じて体得していくことを目指すことを意図している。本教材を使用した授業では、学習者による自律的学習へ導くこと、学習者の情報収集、情報・意見交換の場を設け、相互学習を促進することを期待している。今回の研修プログラムでは、学習者の創作した作品を評価対象としたが、今後多面的評価法の模索が必要となるであろう。

【キーワード】日本語教材　七五調　言葉あそび　落語　作品の創作

Development of Integrated Teaching Materials for Japanese Language Teachers in-service training: production and development of "*NIHONGO O TANOSHIMU*"

SAKAI Takako,　TAKAHASHI Junko

【Abstract】This is a report concerning the production of teaching materials for a group of Korean teachers of Japanese. "NIHONGO O TANOSHIMU" has three parts, (1) Japanese poetry meter, dealing with combinations of five and seven syllables, (2) puns and (3) RAKUGO, Japanese traditional story telling. These teaching materials are intended to help learners grasp Japanese language characteristics not only through instruction but also through the recitation and creation of short poems. Classroom activities using these teaching materials are aimed to encourage independent study and peer learning. In the future, a standard for evaluating the learners' overall performance will be required.

【Keywords】teaching materials, seven-and-five-syllable meter puns, Rakugo, creating poetry

1．　はじめに

京畿道外国語研修院の現職教師を対象とする一ヶ月間の日本語研修を、どのような内容でどのように構成するか検討していく中で、日本語のことば自体を楽しむ経験を入れたいと考えて企画したのが本特集である。他のトピックとは異なり、聴解・読解・作文・会話といった４技能の枠にはとらわれずに３時間分の教材を作ることになった。本稿では、その制作意図と内容、および今後へ向けての発展を紹介する。

日本語のことば自体を楽しむということに関しては、これまで数年にわたり筑波大学留学生センターの上級向け日本語(1)において、落語、川柳、言葉あそびなどを扱ってきた。学習者からは、「楽しいだけでなく、今まで気付かなかった面から日本語や日本文化に接することができ、世界が広がった」との感想が聞かれ、現職者に対する研修においても是非取り入れたいと思った次第である。

2002 年から実施されている韓国の高校の第 7 次教育課程には、日本文化理解と国際交流への積極的態度を養うこととインターネット上で日本語検索ができるようになることが目標として盛り込まれているが、本特集の内容はこれに強く繋がるものになると思われる。特に日本文化理解に関しては、新教育課程の教科書には「学習素材にも文化項目を入れ、生活文化とともに日本人の言語行動への理解が目標や内容に明記されているのも特徴の一つ」（三枝 2002）とのことで、本特集でもこの目標が生かされると考える。

国際交流基金の現職教員の研修生のアンケートによると、研修において教室へ持ち帰り利用出来るような教材を望むという要望が多い。この特集の教材の内容やアイディアを現場の教育に生かし、生徒共々日本語を楽しんでほしいというのが作成者の願いである。

本稿は、２章で全体的な制作方針と構成、３章で具体的な教材の紹介および個々の制作意図、４章で今後の課題とさらなる発展という構成になっている。執筆にあたっては、１章および３章を酒井が、２章および４章を高橋が担当した。

2．　教材の制作方針および構成

2.1　教材の制作方針

中上級レベルの日本語教育に携わる韓国語母語話者という学習者を対象とした場合、何をキーワードにして教材を制作するのか。そのキーワードを＜特集＞では「教室から実践へ」と設定した。もう既に長い間日本語学習に時間を費やし、実力もある学習者にとって、教室での知識詰め込みから、日本社会での実践力をつけることを目的にするのが適当であろう。しかし、どこから入ればいいのか。「実践へ」の扉は種々様々である。学習者の興味も千差万別である。そこで学習対象である日本語そのものを操って遊ぶ「笑い」の世界への扉を「特集」では選択した。「笑い」を引き出すには様々な要素がからみ合っている。言葉が分かれば全て理解できるというものではない。背景知識が必要となる。背景知識も政治経済など時事

問題から、歴史、文化、芸能、ファッション、スポーツなど範囲が広い。すべて網羅するのは不可能である。なるべく普遍的な、時代の変遷を生き延びてきた言葉自体による「笑い」に的を絞った。

日本語母語話者にとってはあまりに身近すぎて、外国語としてあえて説明する必要を見逃してしまいそうな言葉、表現、背景知識などをいったん剥ぎ取り、観察し、それらを再構築するという作業を行い、より小さな単位から徐々に大きい単位のものへと発展させ教材として並べてみた。大筋の流れを具体的に述べると、日本語のリズムである七五調の俳句・川柳からシャレの類いを経て落語の入り口へと誘う構成である。

今回ここに取り上げた以外にも知っておいてもらいたいという項目が数多く出てきた。それらを取捨選択し、１つの流れにまとめたものが本＜特集＞である。間口は狭そうだが、奥へ入って行くにしたがってより広く深い知識と日本語力がつくことを期待している。

2.2　３つのテーマ

本＜特集＞は３つのテーマから成っており、各テーマは独立しつつも、それぞれ日本語の特性を扱い、最終的には落語という形で各テーマの学習項目がつながるように配置した。

テーマ１：日本語のリズム・七五調

日本の詩歌の形式では、七五、あるいは五七調の音数律が発達しているが、このリズムは文学の世界だけでなく、私たちの日常でもよく目にし、耳にする。七五調は、日本語母語話者には耳に心地よいだけでなく、記憶にもよく残る。そのため、テレビなどのCM、交通標語、受験生が歴史の年号を覚えるのにも使われている。この七五（五七）調のリズムを意識してもらおうというのが、本テーマの狙いである。素材としては、俳句、川柳、標語、現代詩を取り上げた。

テーマ２：言葉あそび

次に続くテーマ３で取り上げる「落語」への橋渡し、基礎知識の提供ともなるものである。日本語の特色の１つとして同音語の多いことがあげられる。同音語が多いことで、日常生活で様々な言い間違えや聞き間違い、伝達の不都合が生じる。しかし、またそれが笑いの種になることもある。シャレ、ダジャレと言った類いのあそびができるのである。また、似た音の言葉、「こども/くだもの」、「肉/国/猫」など外国語として日本語を学ぶ者にとっては誤解を招く厄介なものかもしれないが、そこから可笑しみも生まれてくる。そして豊富な日本語の擬音語擬態語を使ったシャレもある。子どもの時にはほとんどの日本人がなぞなぞで言葉あそびを楽しんだのではないだろうか。このテーマ２では同音異義語や動物の鳴き声を使ったシャレ、特にシャレの要素を盛り込んだなぞなぞを素材として取り上げた。

テーマ３：落語

テーマ１、２で学んだことの集大成として落語を聞く。日本語では、一つの漢字に様々な読み方があり、また同じ名前でも何通りもの書き方がある。同音異義語とは反対に一つの名前の漢字を何通りにも読めることで混乱を起こすのが、ここで取り上げた「平林」という落語の主題である。さらに落語の主人公の小僧さんが歩きながら名前を唱える時のリズムも聞き取って楽しんで欲しいという狙いがある。日本の伝統話芸の一つ、落語への入り口としてこの作品を撰んだ。プロの噺家が、様々な登場人物を声の調子、話すスピードなどを変えて演じ分ける様や間の取り方に注意を向けさせ、学習者が日本語で話しを伝える時の助けになることをも期待している。

2.3　各課の構成

テーマごとに様々なタイプの学習活動を配置してあり､それらを通じて日本語のみならず､広く日本文化への知識､理解が深まり､実践力がつくよう配慮した。また､授業時間の配分､学習者のレベルに応じて柔軟に学習活動を加減できるよう設計した。

「チャレンジ」という印のある活動は、学習者のレベルによっては授業で取り上げてもよいし、学習者のレベルや時間的に余裕がなくて授業では扱わない場合は、意欲的、余裕のある学習者が個別に学習を進めていける活動である。さらに、取り上げた項目の関連ホームページを紹介しており、ここのホームページから授業の前に学習する項目の情報を集めることで、学習項目の俳句、川柳、落語などに関して基本的全体像を把握することもでき、また必要に応じ、あるいは学習者の興味に応じてさらなる個人学習を進めることもできるようになっている。主体的に学習を進めていけるよう配慮した。各テーマの流れは、ほぼ以下のようになっている。

（1） 学習者自身による下調べ
↓
（2）学習者同士の情報交換
↓
（3）課題に取り組みながら基礎知識を得る
↓
（4）創作活動
↓
（5）学習者間での意見交換
↓
（6）個人での発展学習

以下、さらに詳細を説明する。

(1) 授業の前に調べてみましょう：各テーマで取り上げる項目について学習者がインターネットなどから情報を得ることによって自主的取り組みの姿勢、情報収集のノウハウを身につけることを狙う。

(2) 話してみましょう：学習者の既習知識や各自調べてきた情報を交換することでクラス内のコミュニケーションを図り、知識の共有、共通認識の構築を目的としている。本授業で使用する語彙、表現を学ぶとともに、それらを使用する機会にもなる。

(3) 基礎知識の獲得：始めから基礎知識を説明するのではなく、学習者の持っている断片的知識を使い、いきなり問題を解いてみるという形をとる。クイズ性を持たせ、推察する楽しみも同時に味わってもらいたいという意図である。正解を求めるのではなく、その問題を解いていく過程で基礎知識を知識としてだけでなく、むしろ体感してもらおうという狙いである。推察し、試行錯誤し、学習者が自ら結論に辿り着いていくのが理想である。

(4) 作品の鑑賞と暗唱：提示された作品（活字で提示されるものと録音音声で提示されるものがある）を鑑賞し、その解釈、感想を述べ合う。そして、実際に作品を声を出して暗唱してみる。母語話者としては意識せずに何度も聞きていて、覚えるともなしに耳についている日本語のリズムであるが、作品を実際に声に出して言ってみることで学習者に日本語のリズム、音の心地よさを体感してもらいたいという意図の活動である。

(5) 創作と鑑賞：各自の持っている語彙を生かし、独自の作品を実際に作ってみる。さらに、仲間の作品を評価する活動を通して、他の学習者の豊かな発想からも学ぶことができるであろう。難しい語彙や豊富な知識を使ったりすることが求められているのではなく、簡単な言葉から独自の発想を膨らましたり、日本語の単純な音構成だからこそできる言葉あそびを楽しむことが目的である。創造性を使って体験しながら学んでいく活動である。

(6) 話してみましょう：最後に各授業で学んだこと、気づいたことなど、学習者同士で意見、感想を交換する。この話し合いで、授業中自分にとっては疑問だったり、あいまいだったことを明確にしたり、困難だったこと、興味のあったことなどの共感を得ることができる。授業で学んだ語彙、表現を使ったり、作品から引用したりする言語活

動を通して日本語での伝達力を高めることも目的としている。他の学習者との意見交換を通して多面的見方を学ぶことができるであろう。

2.4　その他の練習やヒント

その他、次のような理解を助ける工夫が各課にちりばめてある。

(7) コラム：話し言葉における発音の変化や間投詞についての簡単な説明と例をあげている。さらに日本人には馴染み深いオノマトペの入った歌も参考として紹介している。

(8) ヒント：練習問題を解くための助けになるもので、独りで解けそうならヒントを使わずに挑戦、難しくて歯が立たないようだったら、ヒントを参照しながら解いていくというものである。学習者が自律的に学習を進めていくのを助ける仕組みである。

(9) チャレンジ：授業では取り上げないが、各自余裕があったらやってみると役に立つ課題を提示した。学習者のレベルに応じて、また時間的余裕があれば授業で取り上げてもいいだろう。

(10) ホームページの紹介：各テーマで取り上げる項目の関連ホームページを紹介している。授業の前の一般的知識、情報収集に、さらに発展的個人学習を進めて行くのに役に立つ情報として提示した。

3.　練習の紹介および制作意図

本章では具体例を提示しながら内容を紹介する。なお実際に授業を担当する教師のために教師用指導マニュアルも作成した。それには問題の解答、授業をする上での注意点、作品の鑑賞ガイドなどを含まれている。

3.1　日本語のリズム・七五調

3.1.1　俳句・川柳・標語

四季の風景を織り込みながら感動を凝縮した俳句、現代の風刺から社会が垣間見える川柳、そして教育的に訴え働きかける標語の学習を通して、その背後にある日本の文化とともに七五調の拍感覚を習得させることをねらいとする。

授業の前に

俳句、川柳について調べておく。

基礎知識

知識の少ない学習者も考慮に入れて、言葉、作品例紹介、解説とステップを踏んで理解出来るような構成とした。

1．俳句、川柳、標語を理解するためのキーワードを確認する。
2．作品を示し、俳句、川柳、標語のどれに当たるかを考えさせる。
3．俳句、川柳、標語とは何かを解説した文を読んで理解させる。穴埋め式の問題を解いていく過程で知識が定着することを狙っている。

基礎知識

1．　次の言葉は俳句、川柳、標語のどれに関係がありますか。一つの言葉を何回も使うことがあります。

ア．季語	イ．五七五	ウ．皮肉	エ．社会諷刺
オ．交通安全	カ．１７音字	キ．火災予防	ク．自然描写

（略）

2．　次の作品は俳句、川柳、標語のどれですか。

ア．さあ、寝よう、アッその前に火の点検　　（　　　）
イ．デジカメの エサは何かと 孫に聞く　　（　　　）
ウ．ちょっと待て、遠いようでも車は速い　　（　　　）
エ．菜の花や月は東に日は西に　　（　　　）

（略）

3．　（　　　）の中に［　　］の中から適当なものを選んで入れてください。同じ言葉を何度使ってもかまいません。

川柳も俳句も（　　　　　　）の（　　　　　　）の定型で成り立っている短詩型文芸です。川柳と呼ばれるものには２つあります。今日の出来事を題材にして詠まれるのが「時事川柳」、自分の思い付くことを自由に１７音字に詠むのを「文芸川柳」と言います。

（略）

五七五　標語　季語　１７音字　歳時記

鑑賞

俳句、川柳、標語それぞれ作品を提示して、課題を解きながら作品を鑑賞させる。また口に出して七五調のリズムを体感させることも行う。作品の選択に際しては以下のことに配慮した。

・広く知られていること。
・学習者にとってイメージしやすいこと
・作者や季節が偏らないこと

鑑　賞

1．次の俳句の季語に下線を引いてください。（　　　）にどの季節か書いてください。俳句がどのようなことを詠んでいるのか話し合ってみましょう。

ア．菜の花や月は東に日は西に　　　　（　　　）
イ．いくたびも雪の深さをたずねけり　（　　　）
（略）

2．次の川柳は何を皮肉っていると思いますか。話し合ってみましょう。

カ．プロポーズ　あの日に帰って　断りたい
キ．ケイタイの　機能に知能　おいつかず
（略）

3．（　　　）の中にどんな言葉が入るでしょう。［　　］の中から選んで下さい。

サ．飲んだら（　　　　　）、乗るなら（　　　　　）
シ．あ、あぶない　その一口が　（　　　　　）
（略）

一生　デブのもと　乗るな　火事のもと　止まれない　飲むな

4．1～3 を声に出して読んでみましょう。
気に入った俳句、川柳、標語を一つずつ覚えましょう。

3.1.2　頭韻を踏んだ現代詩

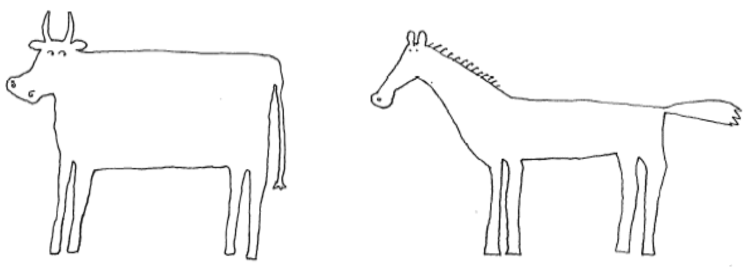
現代詩の面白さを音読を通して体験させることを目的とする。「どきん　谷川俊太郎少年詩集」に収められている「うしのうしろに」という詩を題材に取り上げた。この詩は三音四音五音の三行一組の繰り返しで七五調のリズムになっている。すべての言葉が「う」で始まっているのが特徴であり、さらに音読すると「うちのうちわ」「うしのうしろ」と 2 音ずつの頭韻もあり心地よいリズムを作っている。語彙自体は中級以上の日本語学習者には易しいが、そこに「うるさいうさぎ」など意外性のある組み合わせが出てきて楽しいものとなっている。短い詩なので数回音読を繰り返すうちに自然に覚えられ、声に出す楽しさが味わえる。

1．「うしのうしろに」の作品を声を出して読んでみましょう。面白さを話しあってみてください。

うるさい
うさぎは
うそをつく
うみに
うめぼし
ういている

うちの
うちわは
うつくしい
うぐいす
うれしい
うたうたう

うしの
うしろに
うまがいる
うまい
うなぎは
うりきれだ



「うしのうしろに」　谷川俊太郎「どきん」（1983 年、理論社）

鑑賞の後、次の２点を基本ルールとして学習者に創作をさせる。

（ア）すべての行を同じ音で始める。

（イ）音の数は、3 音・4 音・5 音が基本だが、少し変えることは可。

このような創作活動は、制限がある中で生み出すほうが面白いものが出来ることが多い。教師用の指導マニュアルには、始めの音も教師の方から「あ」から順に当てたり、自分の名前を使わせるなど制限を加えた方がよいと記しておいた。また、初級後半であれば三行一組程度でよいが、上級になれば関連のある長いものにチャレンジさせるとよい。

具体的なイメージを掴みやすくするために、前述した筑波大学留学生センター補講の「話芸で学ぶ日本語」の授業において学習者が創作した作品例を載せた。

2.「うしのうしろに」と同じような短い作品を作ってみましょう。

学生の作品例

さ

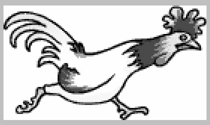
さかに
さくらが
さいている

あ

あわが
あんなに
あふれてる

に

にげろ
にわとり
にぶすぎる



創作にあたっては学習者には辞書を積極的に使わせるようにする。一般的に辞書は分からない言葉を調べるために用いるが、「ここでは『あ』で始まる音で3音のもの」のような条件にあった語を探すという通常とは異なる辞書の使い方をする。そこから語彙を確認したり新しい語を習得したりするのである。

創作２　チャレンジ課題

俳句、川柳、標語の作品を作る。俳句の場合はヒントとして季語をいくつか提示しておいた。

3.2　言葉あそび

日本語には同音異義語が多く、そこから生まれる言葉あそびも豊富である。同音異義語および似た音の言葉を使ったシャレの世界を楽しむことをねらいとする。録音教材も準備し、音を聞いたり、真似をして楽しめるようにした。

授業の前に

同音異義語や似た音の言い間違えや聞き間違いの経験を振り返り、それを客観視することで課題に意識を向けさせる。

1. 自国の言葉の発音が日本語の言葉と似ているもの（例：キムチと気持ち）
2. 同音異義語（例：橋、端、箸）
3. 発音が似ているが、意味が違う言葉（例：主人と囚人）
4. 言葉を間違えて恥ずかしかった経験（例：座ってください、触ってください）

準備活動

同じ音から複数の意味を考えさせる練習により、頭を柔らかく働かせる訓練を行う。まず自由にいろいろな意味の可能性を出させてみる。たとえば、「あいた」の場合、以下のような意味が考えられる。

・あ、いた（居た）
・あ、痛
・あ、板
・開いた
・空いた

余裕があれば複数ことばを入れ込んだ状況や会話に発展させる。

例：（ドアが急に）開いた。
（すると何かが飛んできて頭にあたり）あ、痛。
（何が飛んできたのかを見て）あ、板。

1.　いろいろな意味を考えてみましょう。

例.あ か る い　　⇒　　明るい　／　あ、軽い

1.い い え

2.きって ください。

3.あ い た

（略）

2.　カタカナの言葉を、漢字で書いてみましょう。

例.ゆでタマゴをゆでたマゴ

　　卵　　　孫

1.ニワには、ニワにわとりがいる。

2.ヨメの心をヨメ

3.キシャのキシャがキシャでキシャした。

（略）

２では、日本語力が低い学生のために、ヒントとして漢字のリストを別のページに載せた。

単純なシャレの面白さを理解する

「そう」「はい」「へえ」「ふん」の短い返事を使ったシャレを紹介する。
日本語力が低い学習者の場合は漢字語彙が難しいので、まず言葉の確認を行ったあとで音声を聞かせるというステップを踏む。日本語力の高い場合は文字は見せずに直接音声で与えて直接２つの意味を考えさせ、その後文字で確認するとよいだろう。

頭の体操 -1-

1.右と左で関係のあるものを結んでください。

イ．そう・　　　・a 蝿

ロ．ふん・　　　・b 僧

ハ．へえ・　　　・c 塀

ニ．はい・　　　・d 糞　　（コラム１参照）

2.（　　　）にはいる言葉を上のイロハニから選んで書いてください。

1.　A:鳩（はと）がなんか落としたよ。

B:(　　　　　　)　‡

‡

2.　A:向こうの空（あ）き地（ち）に囲（かこ）いができたね。　‡

B:(　　　　　　)　‡

（略）

《コラム１》では２つの言葉が音声上は似た音のシャレになっているが、表記は塀は「へい」、蝿は「はえ」と表記することの解説を加えた。

動物の鳴き声のオノマトペを学ぶ

オノマトペのうち、動物の鳴き声は言葉の違いを意識する上で楽しい話題となる。外国人学習者にネズミの鳴き声を聞いたところ「鳴かない」という答えが多く、無理に聞くと「ピッピッ」、「チッチッ」という音で表現していた。日本語ではネズミは「チュウチュウ」という鳴き声がほぼ浸透しているが、これは子どものときから歌などでよく耳にしているためであろう。日本人ならいつの間にかそういうものだと覚え込んでいる文化的知識のひとつとして、ここではさまざまな動物や鳥の鳴き声や様子を表すオノマトペを紹介した。

頭の体操 -2-

1.　日本語では、鳴き声などをどのように表すでしょうか。

(A)　ねこ　★（　　　　　　　　）
牛　（　　　　　　　　）
豚（ぶた）　（　　　　　　　　）
羊　★（　　　　　　　　）
（略）

◆◇◆　チャレンジ　◆◇◆

(C)　馬がゆっくり歩く　★（　**ポックリポックリ**　）
馬が走る　（　　　　　　　　）
チョウが飛ぶ　（　　　　　　　　）
ハチが飛ぶ　★（　　　　　　　　）
（略）

★　のついているものは、子供の歌う歌に出てくるものであり、《コラム４》に歌詞の一部を紹介した。

動物の鳴き声を題材にしたシャレを理解する

鳴き声を利用したシャレを、音声でクイズ形式にして作成した。解答の初めのステップとして動物と鳴き声を答え、その後でクイズの答えを考えさせる。

2.　テープを聞いて、出てきた動物とその鳴き声を書いてください。

1．動物（　　　　　　　）　　鳴き声（　　　　　　　　）
2．動物（　　　　　　　）　　鳴き声（　　　　　　　　）
3．動物（　　　　　　　）　　鳴き声（　　　　　　　　）

3.　もう一度テープを聞いて下の問いに答えてください。

1.大きさはどのぐらいですか。　　（　大　　中　　小　）
2.何匹ですか。　　　　　　　　　（　　　　）匹
3.キツネは来ますか。　　　　　　（　来る　・　来ない　）

1番目は上にも述べたネズミの鳴き声を使ったクイズである。ネズミが「チュウ」と鳴くところからネズミの大きさが「中」という答えになる。2番目は犬がワンと鳴くところから英語のoneで答えは「一匹」である。3番目はキツネがコンコンと鳴くところから「来ん」から「来ない」という答えになる。《コラム２》で「～ない」が「～ん」に変わる音変化について解説を加えた。

録音教材を聞いて、少し複雑なシャレを理解する

音声で短い会話を聞き、その中で使われている言葉の二通りの意味を考えさせたり、クイズ形式で漢字を想像させたりする。

頭の体操 -3-

テープを聞いて答えてください。

1．アノヨの二つの意味は？
（　　　　　　）と（　　　　　　）　　　　《コラム３》参照
2．コッチの二つの意味は？
（　　　　　　）と（　　　　　　）
（略）

………………………………………………………………

-スクリプト-

1.天国の話をしましょう　<u>アノヨ</u>・・・
2.時計屋の前を通りかかると、時計が僕を呼んでいます。
<u>コッチ　コッチ　コッチ</u>

1は来世の「あの世」と呼びかけの「あのよ」のシャレである。文化的にあの世（来世）、この世（現世）の説明を加えると良い。また間投詞「よ」に関しては誤った使用例が多いた

め《コラム３》で解説を加えた。2 は、下記のスクリプトに示したように描写とストーリー性を持たせた少し長めのバージョンも用意して、その後の落語への橋渡しなるようにした。

−スクリプト−

ある村はずれに、古いうちが一軒、ぽつりと建ってます。このうちには人はだれも住んでいません。このうちの中に大きな柱時計がひとつ。だれもねじを巻かないのに、毎日時を刻み続けています。ところがこの柱時計が、夜中になるとそれはそれは恐ろしい音を立てて、外を歩く人をうちの中に呼び込みます。

今宵も時計は人を呼ぶ。

コッチ　コッチ　コッチ　・・・・

なぞなぞ

なぞなぞの中で、「音」を扱ったなぞなぞを取り上げた。質問を読んでその答えを考える過程で、これまでとは違う見方で音や文字を意識したり、言葉を探し出すことを楽しむことができるようになることを目的とした。

頭の体操 -4 -

なぞなぞの答えを考えてみましょう。

世界のまん中にいる虫は？

キツネとネズミが鳴きながら追いかけているのは？

スリが隠れている店は？

ワカメの中に隠れている生き物は？

（略）

3.3　落語

「平林」という名字の漢字をいろいろと読み違え、それをリズミカルに聞かせる落語を題材として取り上げた。はじめに漢字の読み方、書き方の難しさをイントロダクションとして紹介する。落語には文化の面からも、また言葉の面からも日本語学習の教材として面白い内容が豊富に含まれている。しかし、生の落語をそのまま学習者に使用するには難しすぎるので、本教材では落語の入門としてプロの噺家の協力を得て学習者のための教材を作成した。

授業の前に

落語、漫才について調べておく

話してみましょう

1.落語、漫才などの話芸を聞いた体験

2.学習者の国における伝統話芸について

3.チャレンジとして、笑いを引き出す方法

4.笑いの効用

調べてみましょう

・　1.複数読み方のある人名、地名を考えさせる。

・　2.同じ音の名前がいろいろな漢字等で書き表せることを紹介する。

チャレンジ

自分の名前の漢字を口頭で伝える。これは、実際に日常生活において説明を求められることが多く、実践的な練習となっている。

話してみましょう

1.　**日本語の人名、地名は読むのがむずかしいものです。次の漢字にはどんな読み方があるでしょうか。いくつかの読み方があります。**

1.三田

2.上山

（略）

2.　「ゆうこ」「ひろし」という名前はどう書くでしょう。

◆◇◆　チャレンジ　◆◇◆

自分の名前の漢字を口頭で伝えてみましょう。

例：川上（かわかみ）です。川（かわ）は３本川（さんぼんがわ）の川（かわ）で、上（うえ）は上下（うえした）の上（うえ）です。

落語の基礎知識

落語についての基礎知識を、穴埋め式の問題を解きながら答えていく過程で理解させることを狙った。

基礎知識

1. 落語は（　　　）を着て座布団に座り、主に（　　　）を中心にして話をすすめ、最後に（　　　）をつけて、聞く人を楽ませる話芸です。

（略）

3. 小道具としては、扇子と手ぬぐいだけしか使いません。（　　　）は筆、刀、箸などに、（　　　）は、本、財布、焼きいもなどに見立てて使います。

（略）

江戸　扇子　弟子　師匠　落ち　１人　新作　会話　着物　手ぬぐい

落語　平林

以下の理由により「平林」という落語を初めて紹介する噺として取り上げた。

1）名前の読み方を忘れた小僧さんがいろいろな人にその漢字の読み方を聞くという単純なストーリーで、日本語力の低い学習者にも分かりやすい。

2）さまざまな登場人物に同じ質問を繰り返す中で、異なる待遇表現の会話が観察できる。

登場人物

店の旦那、小僧さん、学生、高飛車な物言いをする警察官（お巡りさん）、上品な話し方をする老女、偉そうな老人

3）繰り返しが多いので、聞くべきポイントを絞って理解しやすい。

4）繰り返しの部分は七五調になっており、リズムの楽しさを味わえる。

5）漢字の読みの多様さに苦労するという面では、学習者も共感を得る。

1.　まず、始めから終わりまで通して聞きます。分かったことを話し合ってみましょう。

1.どんな漢字の名前だと思いますか。
2.どのような人が出てきましたか。
3. 話の場面はどこですか。
4. だれが何をしましたか。

2.　もう１度テープを聞きます。小僧さんは漢字で書かれた名前の読み方をいろいろな人に聞きます。どんな読み方がありましたか。メモを取ってください。
テープを名前の読み方のところでとめます。読み方を確かめてみましょう。

1)店のだんな：
2)学生さん　：
3)おばあさん：
4)お巡りさん：
5)偉そうな人：

どうしてそういう読み方になるのか説明してみましょう。

3．　話の終わり方（落ち）は、どのような言葉でしたか。

言ってみましょう

全部の名前を言っているところを、落語を真似てリズムよく言ってみましょう。

話してみましょう

落語の面白さ、難しさはどんなところにあると思いますか。それはどうしてですか。

なお、紹介した落語協会のホームページでは100人を超えるプロの噺家の映像付きの落語が見られるようになっている。(2)

４　今後の課題とさらなる発展

４.１　本教材の基本姿勢

本教材は、次の２本の柱を基本にしている。それは、(1) 個人レベルで行う情報収集活動および創作活動と (2)学習者の共通認識構築のため、各自の既習知識、経験、情報収集によって得た知識の共有、他の学習者の作品鑑賞など学習者同士による相互学習である。各テーマの授業に入る前に、(1)または(2)の活動が配置されている。

例えば、

テーマ１「日本語のリズム七五調」では、俳句、川柳について調べてくる。………(1)
テーマ２「言葉あそび」では、同音異義語や似た音の言葉についての既習知識
　　　　　や言い間違え、聞き間違えの体験を共有する。……………………………(2)
テーマ３では、落語、漫才について情報収集をし各自の経験を披露したり、
　　　　　笑いについて意見の交換をする…………………………………………………(3)

というものだ。各テーマの最後においても各自の作品紹介(1) を始め、学んだ落語に関する意見、感想を交換する活動(2) が設けられており、学習者が１人で知識を詰め込むような設計にはなっていない。授業で学習者に授業で学んだ語彙、表現を使って、日本語での活発なコミュニケーションを促すことも本教材の目的とするところである。

もう１つの目的は、＜特集＞教材が、本プログラムの日本語学習者という身分であると同時に韓国では日本語教育に携わる現職日本語教師にとって、それぞれの日本語教育機関での日本語授業の幅を広げたり、新たな切り口を見い出す助けになることである。学習者自身の日本語知識、能力の向上とともに、本教材を使用した授業を受けた経験がそれまでの教授法をよりよい方向へと発展させていく一助となることを期待する。

教師という立場では、ともすると学習者の間違いを追求する姿勢が知らずに身についてしまいがちではないだろうか。また、教師たる者、間違えてはいけないという無意識のプレッシャーの下、自身の日本語での間違い体験が恥ずかしいもの、辛いものになっているかもしれない。テーマ２では、授業の始めに日本語での言い間違い、聞き間違いの体験を話しあうという活動を設けてある。テーマ２で同音意義語のしゃれや小咄を楽しむ経験を通し、それまで教師として言葉の間違いに対して厳しい目をむけていなかったか振り返る機会になれば幸いである。日本語教師でもある学習者の方々が、多少なりとも言語学習の新たな側面に目を向けてもらえたら制作者としてはうれしく思う。

本教材＜特集＞制作にあたってのキーワードを「教室から実践へ」と冒頭で述べた。実践と言っても落語をやってみたり、俳句を詠んでみたりすることを目指しているわけではない。もちろん、それを阻止するつもりは毛頭ないが、教材制作者が考えるのは日本語のリズムや言葉のあそび感覚を身につけることで今まで聞き逃していたり、見逃していた日本語の情報を捕らえる率があがるであろうということである。具体的には、日本語で映画を見たり、テレビ番組を見たりした際、笑いに積極的に取り組めるようになるのではないかということである。外国語で笑いを理解するのは無理だ、難しいと避けてしまうか、あえてそのメカニズムを知ろうとするかは個人差があるだろうが、本教材を使用して授業を受けた学習者は少なくとも笑いは分解していけば分るという態度が身に付くのではないか。実際、分かって大笑いする機会もあるだろう。つまり、学習者の頭の中に日本語のリズムや言葉のあそび感覚を構築すれば、様々な場面でそれがコンピュータのプログラムのように立ち上がってくるであろうということである。日本語の様々な音声や活字の情報に触れるたびにこの知識と感覚を使って理解していくことが実践となってほしい。

4.2　日本語研修プログラムの性格と評価方法

この韓国人日本語教師を対象にした日本語研修プログラムは、４．１で述べた学習者自身の日本語能力の向上と教授法の進歩に貢献することが基本であるが、もう１つの側面も持つ。この研修の成績上位者が日本にさらなる研修のため派遣されるのである。その人材の選抜という側面も持つのである。そして、ほとんどだれもが派遣されることを目指している。学習者にとっては、１点の差が人生の大きな分かれ道にもなりうるわけである。それだけに評価の妥当性、公平性が厳しく問われる。

本＜特集＞の授業では、学習者の提出した作品を教師が評価するという評価法を採用したが、さらに多面的に学習者の能力を図る工夫が必要であろう。今回の評価基準は資料 2 に載せた。創作活動だけでなく鑑賞能力を始め、発音、イントネーション、間の取り方などを含めた口頭表現能力、日本語授業への応用力などを測る基準を設けることが今後の課題となってくる。学習者の日本語能力とこれらの能力との相関関係なども今後データを収集し明らか

にしていくことが求められよう。

4.3　さらなる発展へ向けて

本教材では、作品を発表し、学習者同士で鑑賞するという活動があるが、現段階では鑑賞の仕方、作品の評価基準のようなものは紹介せず、学習者の自由な感想、意見を引き出すことに重点をおいている。学習者の学習レディネスに応じて作品鑑賞の仕方を紹介することも必要になってくるのではないだろうか。文芸作品などの評価基準は、確かに個人的嗜好によるところも大きいが、俳句など伝統文芸は、鑑賞するにあたって押さえるべき基本が比較的はっきりしている。そして、その基準そのものが日本人の感性を示す文化的要素も含んでいる。その基準を押さえた上で作品鑑賞をしていくのも学習者にとっては新しい物差を与えられたような新鮮な感覚が持てるのではないだろうか。作品鑑賞、評価のための語彙、表現なども紹介し、それらを駆使して既存の作品を批評したり、学習者同士が互いの作品について感想を交換しあえるまで学習者を引っ張っていくことができる授業設計を模索していきたいと考える。

日本語を学ぶことは、すべての言語学習に共通するように、文化を学ぶことでもある。どのようなテーマを選んでも行き着く先には文化があるが、特にこの＜特集＞は日本文化の至近距離にあると言えよう。３番目のテーマとして紹介した「落語」などは日本文化を学ぶ宝庫ともいうべき様々な要素が一つの話しに凝縮されている。落語を聞いて即座に笑えたり、共感したりできるのは、日本語話者としての数えきれないほどの文化的社会的知識が総動員され、それらが一瞬にして統合され、反応をおこすのだ。外国語で笑いを理解するのが一番難しいというのが共通認識であろうが、笑いを引き起こす要因を１つ１つ分解し、段階をおって並べ、学習者に提示していく、という根気のいる作業をあえて続けていきたいと考える。学び続ける学習者がいるかぎり、教え続ける教授者がもとめられるはずである。笑いを理解するのは困難ではあるが、不可能ではないのだ。その始めの一歩を示すという意味において本教材は大きい意義があると信じている。

4.4　最後に

本教材に対する学習者の反応、学習の成果を見るためアンケートを作成した。（資料参照）本教材が (1) 自分自身の日本語能力、知識を深めるのに有益であったか、(2) 日本語授業の参考になったか、の２点を主に知るためのものである。この結果については次号で報告する予定である。

注

(1) 酒井が担当した筑波大学留学生センターの補講の日本語授業「聴解・会話 7」および「話芸で学ぶ日本語」において取り上げた。

（2）著作権に関しては、落語協会ホームページ委員会に依頼して、授業において文字化したり、教材化することの許可は得た。

引用文献

谷川俊太郎（1983）『どきん 谷川俊太郎少年詩集』理論社

参考文献

奥村訓代（2000）『異文化共有論』凡人社

小島貞二（1986）『子ども古典落語』1-5 巻　アリス館

三枝優子（2002）『韓国の日本語教科書事情』文教大学教育研究所紀要第11号

高柳蕗子（2003）『始めちょろちょろなかぱっぱー七五調で詠む日本語』集英社

谷川俊太郎（1983）『どきん 谷川俊太郎少年詩集』理論社

趙　美淑（1998）『楽しく分かりやすい授業を目指して』韓国・ソウル市内光栄女子高校 日本語教育通信第 31 号、国際交流基金日本語国際センター：4

国際交流基金日本語国際センター（1998）「授業のヒント　なぞなぞ・クイズ」『日本語教育通信』30：12-13

国際交流基金日本語国際センター（1998）「授業のヒント　なぞなぞ・クイズ」『日本語教育通信』31：16-17

資料１　教材アンケート

特集「日本語を楽しむ」　　　　教材に関する質問

今回の「日本語を楽しむ」の教材について意見をお聞かせください。

お名前　　　　　　　　　　　　　　　　　　（無記名でも構いません）

年令（　　　　）才　　　　　　　　　　　　　（構わなければお教えください）

日本語学習暦（　　　　）年

女・男

日本語以外の外国語教育免許　有・無　→　有と答えた方はどんな言語教育ですか。

（　　　　　　　　　　）

*コメントは韓国語で書いていただいてもいいです。

(의견란은 한국어로 기입하셔도 됩니다.)

1. **特集「日本語を楽しむ」の全体を通しての感想をお聞かせください。**（あてはまるものいくつでも○を書いてください。）

1) **集「日本語を楽しむ」は**

ア（　　）自分の日本語能力を高めるという意味で役に立った。

イ（　　）自分の日本語能力向上という意味ではあまり役に立たなかった。

ウ（　　）自分の日本語教育の幅を広げたり、応用するのに役に立った。

エ（　　）自分の日本語教育への応用という意味ではあまり役に立たなかった。

オ（　　）その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

何かコメントがありましたらお書きください：(한국어 기입하셔도 됩니다.)

2) **特集「日本語を楽しむ」は、**あてはまるもの一つに○を書いてください。

難易度

ア（　　）全体的にやさしかった。

イ（　　）ちょうどよい難易度だった。

ウ（　　）全体的に難しかった。

難易度について、何かコメントがありましたらお書きください：(한국어 기입하셔도 됩니다.)

関心度と発展（あてはまるものいくつでも○を書いてください。）

ァ（　　）簡単な言葉を使った創作活動を楽しめた。

ィ（　　）母国語や外国語での言葉を使ったいろいろなあそびに興味を持った。

ゥ（　　）日本語のリズムや音に対して以前より敏感になった、あるいはこれから敏感になるように思う。

エ（　　）自分自身や学習者の言い間違いや聞き間違いを楽しめるようになった、あるいはこれから楽しめるだろう。

オ（　　）自分の日本語授業で採用、あるいは少し形を変えたりして応用してみようと思った。

カ（　　）このタイプの活動はあまり好みではない。

その理由を構わなければお教えください：(한국어 기입하셔도 됩니다.)

2. **各テーマごとに感想をお聞かせください。**

（１）日本語のリズム　七五調　川柳、俳句、標語、現代詩

（２）言葉あそび　同音異義語、シャレ、オノマトペ、なぞなぞ

（３）落語「平林」

1) ３つの中で面白かった順に番号を書いて下さい。

（　　　）（　　　）（　　　）

何かコメントがありましたらお書きください：(한국어 기입하셔도 됩니다.)

2) 難しかった順に番号を書いてください。

（　　　）（　　　）（　　　）

何かコメントがありましたらお書きください：(한국어 기입하셔도 됩니다.)

3) さらに勉強を深めたいと思う順に番号を書いてください。

（　　）（　　）（　　）

何かコメントがありましたらお書きください：(한국어 기입하셔도 됩니다.)

4) 自分の日本語能力向上、および日本文化に関する知識を広げるという意味で特に役に立ったと思う順に番号を書いてください。

（　　）（　　）（　　）

何かコメントがありましたらお書きください：(한국어 기입하셔도 됩니다.)

5) 自分の日本語授業の幅を広げたり、応用したりするのに役に立ったと思う順に番号を書いてください。

（　　）（　　）（　　）

何かコメントがありましたらお書きください：(한국어 기입하셔도 됩니다.)

3．この教材では覚えて、声に出して言ってみるというものがいくつかありましたが、

1) どれが一番面白かったですか（　　）

2) どれが一番難しかったですか（　　）

3) あまり意味がなかったものはどれですか（　　）

その理由を構わなければお教えください：(한국어 기입하셔도 됩니다.)

ア．川柳　イ．俳句　ウ．標語　エ．うしのうしろに	
オ．同音異義語　カ．落語の名前を言ってみる	

4．ある文章を覚えたり、繰り返し言ってみたり、リズムを真似てみる学習方法について意見を聞かせてください。

ア（　）全般的(ぜんぱんてき)日本語能力向上に役に立つ

イ（　）面白いがあまり役に立たない

ウ（　）役に立たない

エ（　）その他（　　　　　　　　　　）

何かコメントがありましたらお書きください：(한국어 기입하셔도 됩니다.)

5．落語について意見を聞かせてください。（あてはまるものいくつでも○を書いてください。）

ア（　）落語が楽しめた。チャンスがあったら他の落語を聞いてみたいと思う。

イ（　）この落語は楽しめたが、他の落語は説明がないとわからないと思う。

ウ（　）落語はまだまだ自分の実力では楽しむまでは行かなかった。

エ（　）落語はあまり興味がわかなかった。

その理由を構わなければお教えください：(한국어 기입하셔도 됩니다.)

6．その他、何でも気が付いたこと、感想、意見、提案などありましたら、お書きください。(한국어 기입하셔도 됩니다.)

ご協力ありがとうございました。

（韓国語版）

특집「日本語を楽しむ」　　교제에 관한 질문

교제「日本語を楽しむ」에 관한 의견을 부탁드립니다.

성명　　　　　　　　　　　　　　　(무기명도 상관 없음)
연령 (　　　)세　　　　　　　　　(가능하면 기입 요망)
일본어 학습 기간 (　　　) 년
성별 :　남 · 여

일본어 이외의 외국어 교육 자격 유・무→ **有 · 無** (해당 사항에 체크 요망)
있는 경우 해당 언어를 기입해 주십시오. (　　　　　　　)

1. 특집「日本語を楽しむ」에 대한 전반적인 감상을 부탁드립니다. (해당 사항에 0 를 표시해 주십시오)

1) 특집 「日本語を楽しむ」는

ア (　　) 자신의 일본어 능력을 향상시키는데 도움이 되었다.
イ (　　) 자신의 일본어 능력 향상에 별로 도움이 되지 않았다.
ウ (　　) 자신의 일본어 교육의 폭을 넓히고, 교육에 응용하는데 도움이 되었다.
エ (　　) 자신의 일본어 교육에 응용하는데 별로 도움이 되지 않았다.
オ (　　) 기타 (　　　　　　　　　　　　　　　)

위의 항목 이외의 의견이 있으시면 기입해 주세요.

2) 특집「日本語を楽しむ」는、(해당 사항에 0 를 표시해 주십시오)

난이도

ア (　　) 전체적으로 쉬웠다.
イ (　　) 적당한 난이도였다.
ウ (　　) 전체적으로 어려웠다.

난이도에 관한 의견이 있으시면 기입해 주세요.

관심도와 발전 (해당 사항에 0 를 표시해 주십시오)

ァ (　　) 간단한 어휘를 사용한 창작활동이 즐거웠다.
ィ (　　) 모국어와 외국어 어휘를 사용한 여러가지 놀이에 흥미를 갖게 되었다.
ゥ (　　) 이전보다 일본어 리듬과 음에 민감해 졌다. 또는 앞으로 일본어 리듬과 음에 더욱 관심을 갖을 것 같다.
エ (　　) 교제에 나온 언어유희를 즐기는 시간을 가지므로써 자신과 학습자의 말하기, 듣기에 있어서의 실수를 즐길 수 있게 되었다.
オ (　　) 자신의 일본어 수업에 이용하거나 아니면 조금 형식을 바꿔서 응용해 보고 싶다는 생각을 했다.
カ (　　) 이런 형식의 활동은 별로 선호하지 않는다.

이유가 있으시면 기입해 주십시오.

2. 각 테마별 감상을 부탁드립니다.

（1）일본어 리듬, 7.5 조(七五調), 센류(川柳), 하이쿠(俳句), 표어 (標語), 현대시(現代詩)
（2）언어유희(言葉あそび), 동음이의어(同音異義語)、동음이의어를 이용한 익살 (シャレ)、의성어(オノマトペ)、수수께끼(なぞなぞ)
（3）라쿠고(落語)「히라바야시(平林)」

1) 세 개 중에 재미있었던 순서대로 번호를 기입해 주십시오.
(　　) (　　) (　　)

관련 의견이 있으면 기입해 주십시오.

2) 어려웠던 순서대로 번호를 기입해 주십시오.
(　　) (　　) (　　)

관련 의견이 있으시면 기입해 주십시오.

3) 좀 더 공부를 해보고 싶다고 생각한 순서대로 번호를 기입해 주십시오.

(　　)(　　)(　　)

관련 의견이 있으시면 기입해 주십시오.

4) 자신의 일본어 능력 향상 및 일본 문화에 관한 지식을 넓히는데 도움이 되었다고 생각한 순서대로 번호를 기입해 주십시오.

(　　)(　　)(　　)

관련 의견이 있으시면 기입해 주십시오.

5) 자신의 일본어 수업의 폭을 넓히는데, 또는 수업에 응용하는데 도움이 되었다고 생각한 순서대로 번호를 기입해 주십시오.

(　　)(　　)(　　)

관련 의견이 있으시면 기입해 주십시오.

3. 이번 교재에 암기해서, 소리를 내어 말해보기 활동이 있었는데, 그 중에서

1) 어떤 것이 제일 재미있었습니까? (　　)

2) 어떤 것이 제일 어려웠습니까? (　　)

3) 별로 의미가 없었다고 생각되어지는 것은 무엇입니까? (　　)

관련 의견이 있으시면 기입해 주십시오.

ア. 센류(川柳)　イ. 하이쿠(俳句)　ウ. 標語(표어)　エ. 우시노우시로니 (うしのうしろに)　オ. 동음이의어(同音異義語)　カ. 라쿠고에 나왔던 히라바야시의 이름을 말해보다 (落語の名前を言ってみる)

4. 문장을 암기하거나, 반복해서 말해 보거나, 리듬에 맞추어 따라해 보는 학습 방법에 대한 의견을 부탁드립니다.

ア (　) 전반적으로 일본어 능력 향상에 도움이 되었다.

イ (　) 재미는 있었지만, 별로 도움이 되지 않았다.

ウ (　) 도움이 되지 않았다.

エ (　) 기타 (　　　　　　　　　　　　　)

관련 의견이 있으시면 기입해 주십시오.

5. 라쿠고에 관한 의견을 부탁드립니다. (해당 사항에 O를 표시해 주십시오)

ア (　) 라쿠고가 재미있었다. 기회가 있으면 다른 라쿠고도 들어보고 싶다.

イ (　) 이번 라쿠고는 재미있었지만, 다른 라쿠고는 설명이 없으면 모를 것 같다.

ウ (　) 자신의 실력으로 라쿠고를 즐기는 수준까지는 미치지 못했다.

エ (　) 라쿠고에 별로 흥미가 생기지 않았다.

이유가 있으시면 기입해 주십시오.

6. 상기의 이외에 감상, 의견, 제안 등이 있으시면 무엇이든 상관없으니, 모두 기입해 주십시오.

감사합니니다.

資料２　特集の評価

特集の評価

項目：特集　日本語を楽しむ

評価項目　作品の完成度

点数　３６－５０　・形式（※）に則って創作しており、優れたリズム感が感じられる。
・伝えたい内容が読み手に訴えかける
・想像性・斬新さ・独創性の観点から面白さが感じられる
・作品として美しく魅力的に仕上がっている

１６－３５　・形式（※）に則って創作している。
・伝えたい内容を読み手が理解できる。
・想像性・斬新さ・独創性の観点の面での工夫は認められる。
・作品として仕上がっている。

０－１５　・形式（※）に則って創作していない
・伝えたい内容を読み手が理解できない
・想像性・斬新さ・独創性の観点から面白さは特に感じられない
・作品としての仕上がりが不十分。

Total in this section: ５０

注意　提出期限を守らない場合は得点から 15 点マイナスになります。

※形式　俳句・川柳　５７５
標語　７５調を基本にしたもの
良い意味でのリズムの崩れ（字余り、字足らず）はプラスに評価する。